

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	言語表現演習		
英文授業科目名	Practice in Expressing Yourself		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	中島 義道		
居室	東1-605		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nakajima@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
a 主題：書くことと話すことの両方について、言語表現のスキルを学ぶ。 b 達成目標：ある程度複雑な内容を、正確に他者に伝えることができること。

【前もって履修しておくべき科目】
なし。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
コミュニケーション論（できれば）。

【教科書等】
教科書：とくに指定しない。 参考書：そのつど指示する。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

a 授業内容

この授業では、始めの3回程度で、日本語の言語表現における基本的題を説明する。その後7回程度、さまざまな場面における言語表現の例（善い例・悪い例）を提示して検討する。その後5回程度、さまざまな文章の要約、あらすじ、箇条書きなどを実践してもらう。最後の週には試験をする。

b 授業の進め方

とにかく多量の文章を読み（読んでもらい）、それについてあらゆる側面から議論する。学生諸君の多様な意見を尊重する。

c 授業時間以外の学習（予習・復習等）について

日ごろから、なるべく本を読むこと、言語で正確に表現することを心がけること。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

a 評価方法：

毎回、授業内容に関して「書いて」もらう。それが、すなわち出席になる。これがほぼ50%、期末試験が50%と考えてくれればいい。

b 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

「書くこと」の課題を出すこと（2回以上出さないと合格は難しい）。それに、とにかく授業中積極的に発言すること。黙り続けている学生は途中で聴講を断ることがある。逆に、このことをクリアしていれば、期末試験で半分程度の成績でも「可」とする。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

（例）

上にも書いたが、とにかく発言すること。言語表現演習なのだから、そして言語の基本は「話すこと」なのだから、それができない人、する意志のない人は参加しないでもらいたい。

【その他】

とくになし。